頻尿を主訴に施行した超音波検査にて偶然発見された無症候性の腸重積の 1 例

◎髙窪 朋美[1)]、山本 はるみ[1)]、八木下 有美[1)]、神澤 幸枝[1)]、小島 直美[1)]、風間 健美[1)]
医療法人社団協友会 メディカルトピア草加病院[1)]

【はじめに】成人の腸重積は小児と比べ,稀な疾患である.一般的に間歇的腹痛,嘔吐,血便が主症状とされているが,今回頻尿を主訴に行った腹部超音波検査にて,無症状で偶然見つかった腸重積を経験したので報告する.

【症例】65 歳男性.夜間頻尿および数日前の発熱を主訴に泌尿器科を受診した.既往歴は尿管結石で,手術歴はない.

来院時現症は,身長 175㎝,体重 65㎏.頻尿以外の自覚症状は特にない.腹部は平坦で軟.

初診時に尿路感染症を疑い,尿一般検査および尿細胞診検査を実施するも否定的であったため,前立腺肥大症を疑いスクリーニング目的で泌尿器系の腹部超音波検査が追加となった.

腹部超音波検査所見では,前立腺肥大を認め,頻尿の原因と矛盾しない結果となった.同時に脾湾曲部に全周性の不整な壁肥厚を呈する pseudokidney sign と,複数の同心円状に並ぶ target sign を認め,腸重積を伴う大腸癌が疑われた.

追加で血液検査と腹部 CT 検査が施行された.血液検査の結果は WBC $223\times10^2/\mu$L,CRP 23.97mg/dL と高炎症反応を認めた.腹部 CT 検査は腹部超音波検査と同様の所見が指摘された.

排便はあるため,完全に閉塞していないが口側腸管に便塊が貯留していた.腸重積を伴う大腸の悪性腫瘍が疑われ緊急入院となり,1 か月後当院にて手術となった.

【考察・まとめ】今回我々は,無症状で偶然見つかった腸重積の一症例を経験した.患者の主訴に加え,病歴や家族歴,生活習慣など広範囲な情報を十分に収集することで病気の正確な診断と適切な治療につながると考える.

検査の目的以外の所見にも柔軟に対応できるように日頃からスキルアップを目指し,知識の広がりと臨床判断力の向上に努めていきたい.

連絡先：048-928-3111(生理検査室内線 121)